



米国中西部 ～次世代産業を牽引する現場の力～

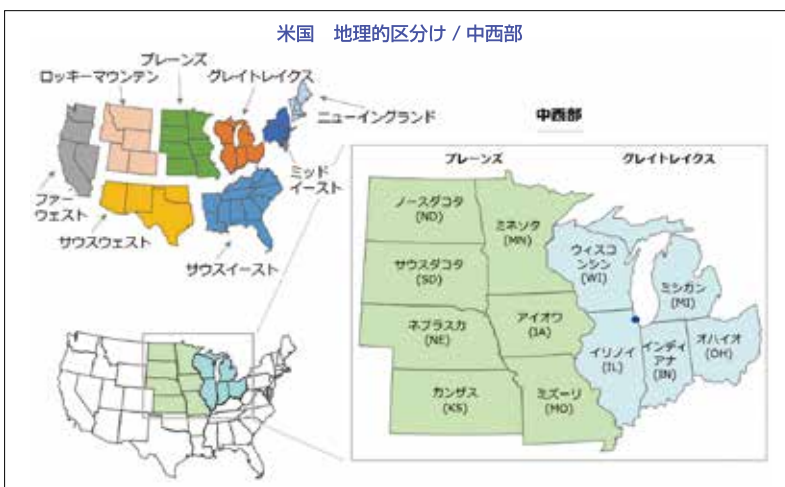
ジェットロ・シカゴ事務所 ディレクター 井上 元太（岐阜市出身）



日本で米国と聞けば、ニューヨークやボストンの東海岸、あるいはシリコンバレーやロサンゼルス西海岸がまず思い浮かぶだろう。だが、米国で実際にモノがつくれ、全米へと届けられる現場の多くは、私が住むシカゴを中心とする中西部に集積している。製造業を支える強固なサプライチェーン、世界の食糧供給を担う農業基盤、そして最先端の医療・バイオ研究が融合するこの地域は、米国経済の屋台骨であると同時に、次世代産業の成長を牽引する舞台でもある。

グレートレイクス： 米国の「ものづくりの心臓部」

五大湖を囲む一帯はグレートレイクスと呼ばれ、豊富な資源と水運、そして鉄道網に支えられて発展してきた米国製造業の中心地である。19世紀には鉄鉱石や石炭の輸送網が整備され、工業化の基盤が築かれたことが、この地域に自動車や鉄鋼産業が集積した大きな要因となった。現在もこの強固な基盤は健在で、全米市場に製品を供給する製造・物流の拠点として重要な役割を担っている。中西部最大都市シカゴ（イリノイ州）は、鉄道網に加えオヘア空港を擁する全米屈指の交通ハブとして機能し、製造業と物流を結び付ける要の存在である。自動車の街デトロイト（ミシガン州）は、その象徴的存在として知られ、ビッグスリー（フォード、GM、ステランティス）の本拠地として発展してきた。今日では電動化や自動運転など次世代モビリティの拠点としても注目を集めている。また、オハイオ州も自動車関連や先端素材を中心に強固な産業基盤を築き、五大湖圏の製造クラスターを支えている。こうした厚みある産業環境を追い風に、岐阜プラスチック工業は2025年、インディアナ州で海外初の工場を稼働。物流用プラスチックパレットの現地生産を開始し、米国市場でのさらなる事業拡張を見据えている。



中西部最大都市シカゴの街並み

プレーンズ：穀物メジャーが育った世界の食料基地

広大で平坦な地形、肥沃な土壌、適度な降水と寒暖差。こうした特性を持つプレーンズは大規模穀物・畜産に最適で、19世紀の鉄道整備を通じて米国の食料供給基地として発展してきた。カーギルやADMといった穀物メジャーもこの地を起点に成長し、いまや世界の食料サプライチェーンを担っている。現在は次世代農業技術（アグリテック）の実装が進み、センサーやドローンを用いた精密農業や自動運転機械、AIによる土壌管理などを通じて、生産性と持続可能性を両立させている。さらに、クリーンエネルギー分野との連携も広がり、水素やSAF（持続可能な航空燃料）などサステナ領域と農業由来バイオエコノミーの接続が注目テーマとなっている。

医療・バイオの最前線：世界一の医療機関メイヨー・クリニック

ミネソタ州ロチェスターに拠点を構えるメイヨー・クリニックは、世界最高峰の医療機関として知られる存在である。臨床と研究を一体化した体制により、がん、循環器、神経疾患など幅広い領域で先進的治療を提供し、世界の医療イノベーションを牽引している。過去にはニューヨーク・ヤンキースで活躍したルー・ゲーリックがALS（筋萎縮性側索硬化症）の診断を受けた病院としても広く知られており、その信頼と実績は歴代の米国大統領を含む要人が利用してきた事実からも裏付けられる。近年はAI診断や遠隔医療、デジタルヘルスといった新しい医療モデルの構築を進め、医療機器やIT分野の企業との国際的な連携を加速している。さらに、隣接するウィスコンシン州では、ウィスコンシン大学マディソン校を中心にバイオ分野の研究と産業集積が進展している。大学と企業の連携によって基礎研究から事業化までの取り組みが広がり、富士フイルムによる細胞治療関連の投資もその動きを後押ししている。

まず“中西部”から始める合理性

中西部は、製造業・農業・医療／バイオが実装レベルで重なる“現場のハブ”である。米国で現場起点のビジネスや製造拠点を考えるなら、最初の一步は中西部が合理的であり、是非一度足を運んでいただきたい。なお、ジェットロの「米国における製造拠点等の立地選定支援」は、工場の候補地比較から関係機関連携まで一気通貫で伴走支援を提供するサービスであり、ご関心のある皆様はご活用いただきたい。